

# 「いちご100年産地につなぐ担い手確保と生産力の安定強化」

芳賀農業振興事務所経営普及部

芳賀地域の地域戦略「「日本一」のいちご産地を次世代へ」

県実施方針の重点取組事項 「新たな施設園芸の展開」

## 1 取組の背景・ねらい

JAはが野いちご部会は、部会員数が542名、栽培面積が168ha、販売金額が92億円で、日本一の産地です（令和2年産）。しかし、過去5年間で、64名の新規就農者を確保できたものの部会員数、面積がそれぞれ54戸、14ha減少しています。このため、産地の維持・発展のためには新規就農者の確保・育成が求められています。

新品種「とちあいか」は、令和2年産から20戸で試験生産が始まり、10a当たりの平均単収は5.8tでした。普及開始から間もないため、品種特性等に合わせた栽培技術の確立や、今後増していく「とちあいか」の新規栽培者に対して重点的に支援していく必要があります。

JAはが野は、令和2年度、2か所の定植苗基地で約26万本の定植苗を供給していました。この2か所の定植苗基地については撤退が予定されていることから、新たに定植苗基地を確保し、定植苗が安定供給できるよう、支援する必要があります。

目標項目	R2実績	R4目標	R4実績	R7目標
新規就農者数	7名	20名/年	21名/年	20名/年
5年累計	64名(H28~R2)	—	—	100名(R3~7)
とちあいか単収	5.8t/10a	6.8t/10a	6.1t/10a	7.0t/10a
定植苗の供給基地数	2か所	5か所	5か所	5か所

## 2 活動対象

### (1) 対象名

新規就農者（新規参入者）、JAはが野いちご部会、JA外出荷いちご生産者、「とちあいか」生産者、真岡地区・二宮地区いちご研究会、定植苗基地

### (2) 対象の概要

#### ア 新規就農者の確保・育成

新規就農者（新規参入者）【7戸（就農1年目3戸、2年目4戸）】

#### イ 新品種「とちあいか」の栽培技術の向上

JAはが野いちご部会【（令和5年産）510戸、161ha】

JA外出荷いちご生産者【（令和5年産）38戸、16ha】

とちあいか生産者【（令和5年産）168戸、42ha、うち新規栽培者71戸】

真岡地区いちご研究会【52名】、二宮地区いちご研究会【50名】

## ウ 定植苗の安定供給

定植苗基地【5か所（既存基地1か所、いちご農家1か所、花き農家3か所（うち、2か所は、定植苗生産1年目、1か所は定植苗生産2年目）】

## 3 活動の内容

### (1) 指導・支援の体制

#### ア 新規就農者の確保・育成

5月と2月に、円滑な就農促進を目的に、当所や市町、JA はが野（以下、JA）等で構成される芳賀地域就農支援ネットワーク会議を開催し、関係機関の就農支援情報の共有・連携を強化しました。加えて、新規就農推進協議会（事務局：JA）では農業研修生受け入れなどの就農支援を実施しているため、連携して新規就農者を確保に取り組みました。

また、JA と当所のいちご担当で打ち合わせを実施し、新規就農者のうち新規参入者は特に細やかな支援が必要なことから、新規参入1～2年目の7名を重点支援対象に選定し、これらの対象者に JA と当所の担当者を配置し、定期的に巡回支援することを申し合わせしました。

#### イ 新品種「とちあいか」の栽培技術の向上

JA と当所で、「とちあいか」生産者に対して重点支援を行う「とちあいか」未来創りサポートチーム（以下、サポートチーム）を結成し、新規栽培者を中心に巡回支援する体制を整えました。

「とちあいか」の品種特性などを解明するため、JA はが野いちご部会の若手生産者を中心とする真岡地区・二宮地区いちご研究会に働きかけ、生育調査を実施することとしました。

## ウ 定植苗の安定供給

定植苗生産では、炭疽病等の病害により、供給本数が不足することがあります。特に、いちご苗の清算を開始したばかりの定植苗基地（花き農家）では細やかな支援が必要なことから、定植苗基地5か所に対して、JA と当所の担当者を配置し、定期的に巡回支援することの申し合わせを行い、更に、LINE で栽培状況等を情報共有する体制を構築しました。

### (2) 活動経過

#### ア 新規就農者の確保・育成

新規就農者を確保するには、県内外・農内外から就農希望者をより多く当地域に呼び込む必要があります。このため、11月に、新規就農塾推進協議会、芳賀地域就農支援ネットワーク会議、当所の共催によるいちご現地見学会を開催しました。18名の参加があり、4名が新規就農塾推進協議会による農家研修を実施することとなりました。また、就農希望者に対して、就農相談を38回/年実施しました。



（写真1 いちご現地見学回の様子）

新規就農者は、栽培に対して不安を抱いていることが多く、栽培中止する場合があります。このため、JA と連携して、月に1回以上は新規参入者7戸を巡回し、作業状況の確認や病

害虫防除の支援を行いました。

#### イ 新品種「とちあいか」の栽培技術の向上

「とちあいか」新規栽培者は、品種特性等を理解していないため、栽培マニュアルの配布（4月）や講習会等による説明（6,8,11,2月）、サポートチームによる巡回（12,2,3月）で施肥等の栽培管理や生育状況を確認し、個別支援を行いました。

真岡地区・二宮地区いちご研究会による生育調査を10月から月に1回実施しました。

#### ウ 定植苗の安定供給

4～9月に、JA と連携し、健苗育成に向けて、肥培管理の改善支援や病虫害防除支援を中心に、月に2回程度巡回支援を行いました。花き農家には、既存の施設を利用した底面給水育苗を提案しました。



（写真2 定植苗基地における底面給水育苗）

### 4 活動の結果

#### (1) 新規就農者の確保・育成

新規就農者は目標を上回る21人（雇用就農3人を含む）を確保できました。新規参入した7戸は、栽培、経営上の課題を解決しながら営農を継続しています。

#### (2) 新品種「とちあいか」の栽培技術の向上

令和5年産「とちあいか」の単収は6.1 t / 10aであり、「とちおとめ」の約1.3倍の収量でした。単収が令和4年産よりも低下した要因の一つとして、新規栽培者が43%と多く、2作以上の栽培者と比べて単収が0.5 t / 10a低かったことが考えられました。一方で真岡地区、二宮地区いちご研究会の調査により、「とちあいか」は、「とちおとめ」と比べて葉の展開が遅い、厳寒期の草丈が低くなりにくい、芽数が多い、暖候期の草丈の伸びが大きいといった特性が明らかになり、品種特性の解明が進みました。また、育苗時の施肥量によって、定植後の不時出蕾が発生すること、施肥量によって1月に障害果が発生することがわかりました。さらに、調査結果などから、令和5年産の収量などの要因分析結果をとりまとめました。

表 とちあいかの栽培面積、栽培戸数、単収の推移

項目	令和2年産	令和3年産	令和4年産	令和5年産
栽培面積	0.9ha	5.9ha	13.3ha	41.8ha
栽培戸数	22戸	59戸	94戸	168戸
単収(とちあいか)	5.8 t / 10a	6.7 t / 10a	6.4 t / 10a	6.1 t / 10a
単収(とちおとめ)	4.6 t / 10a	5.0 t / 10a	5.0 t / 10a	4.8 t / 10a

※単収はJA出荷実績から算出

### (3) 定植苗の安定供給

いちご苗の栽培経験が無い定植苗基地があったものの、定期的に巡回支援を行うことより、適期作業や適切な病害虫防除が行われ、令和4年度は、5基地で注文本数28万本の定植苗が供給できました。

## 5 今後の対応策

### (1) 新規就農者の確保・育成

県内外・農内外からの就農希望者を増やすため、農業現地見学会や就農相談会へ出展を引き続き実施します。また、農業資材の高騰により、栽培開始に係る初期投資金額が上がっており、空き施設の継承などの初期費用を抑える仕組みが必要なため、空き施設の情報収集について、JAと連携して取り組みます。

新規参入者に対しては、必要に応じて1～3年、軌道にのるまでは巡回による支援が必要であることから、今後も継続して巡回を実施していきます。

### (2) 新品種「とちあいか」の栽培技術の向上

毎年、新規栽培者が増えることが予想されることから、引き続き、サポートチームによる巡回を実施していきます。また、令和5年産の要因分析結果を元に、令和6年産の対策（育苗時の不時出蕾対策、障害果対策など）をとりまとめ、JAと連携して「とちあいか」生産者への支援を実施するとともに、高単収生産者の栽培事例を調査し、単収7t/10aどりの技術を組み立てていきます。

### (3) 定植苗の安定供給

いちご苗生産の経験が浅い定植苗基地（花き農家）に対して、引き続き巡回による苗の安定供給を支援していきます。